



title

都市は輝いているか

Design for Graduation 2004

239

TORITAMA Miyuki

/ Associates

room

distance

inner/outer

volume

model

facility plan

inner

「横丁」であるこの計画に立脚していないプログラムを体得する。ここにどうひとつひとつである部局の関係性上、これを成立させる構造のみが、この建築のすべてである。

「用」は時に隣接との距離を伴った。この場合においては、同時に距離とある種距離を伴える形状の特異性による応答密度の差異を利用し、空間に取り付いたランナーが大変容易に機能する。複層的なシステム平常時は目立、異常時にそれ以外の余力を共有することは、効率性とともに更新性を保証する。

また、複合部で設備データの接続も考えられる平均的なワンルームである全体構造に対し、時間間による熱負荷の増減に反応する手段として有命な密度のこの街区において、外周部と内部で熱負荷に大きな差が生じることは避けられない。ここにおいて、共有という態度はこの不利をバランスする。

あるいはこの横丁は現在、共同でひとつの場所を所有しているこの感覚もまた、この場所の質なのだろう。

新宿街口商店街俗称「しよんべん横丁」は、新宿駅西口駅北のなりの北端にいちする飲食店街である。戦後復興より、開市として栄えたこの横丁は、いまだ当時の名残を背負ってそこにある。

1999年11月24日大ガード沿いの1999年11月24日、大ガード沿いの店舗から発生した火災で、29店舗が全半焼した。2項道路の拡張を避けるために、新築でなく修繕という形にこだわって営業を再開した。

店が多いことはあまり知られていない。先の火災により安全面への対応が迫られる中、大江戸線が開通したことを受けて、2003年春、ついに「新宿駅西口地区市街地再開発準備組合」が組織された。街区全体を大きな新築のビルとし、一部にレトロ調の街並みを再現することが計画されている。この小さな敷地割が白く塗りつぶされるのも、遠い日はない。

0 ~ 4000 mm

10000 ~ 4000 mm

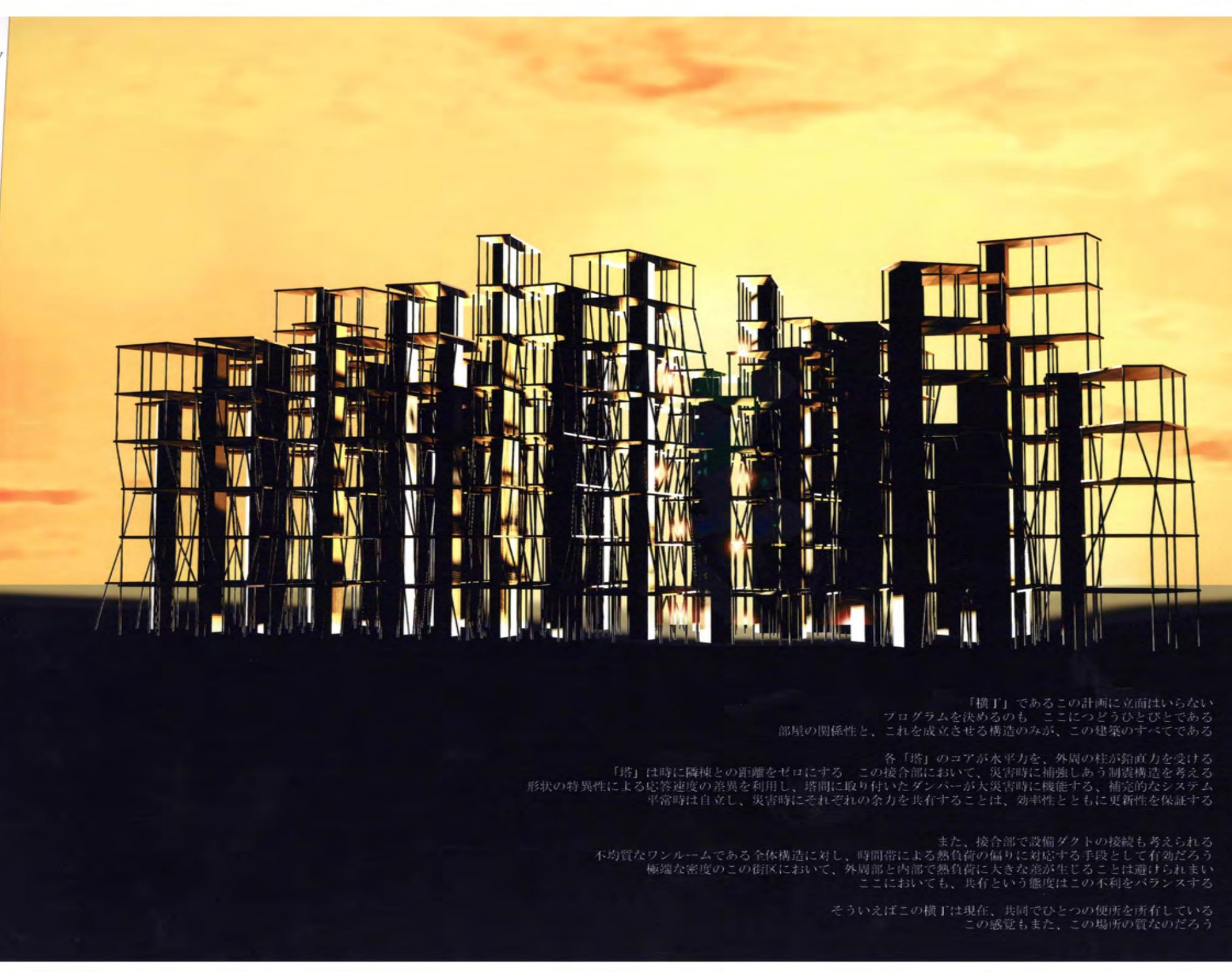
2000 mm

「横丁」であるこの計画に立脚していないプログラムを体得する。ここにどうひとつひとつである部局の関係性上、これを成立させる構造のみが、この建築のすべてである。

「用」は時に隣接との距離を伴った。この場合においては、同時に距離とある種距離を伴える形状の特異性による応答密度の差異を利用し、空間に取り付いたランナーが大変容易に機能する。複層的なシステム平常時は目立、異常時にそれ以外の余力を共有することは、効率性とともに更新性を保証する。

また、複合部で設備データの接続も考えられる平均的なワンルームである全体構造に対し、時間間による熱負荷の増減に反応する手段として有命な密度のこの街区において、外周部と内部で熱負荷に大きな差が生じることは避けられない。ここにおいて、共有という態度はこの不利をバランスする。

あるいはこの横丁は現在、共同でひとつの場所を所有しているこの感覚もまた、この場所の質なのだろう。

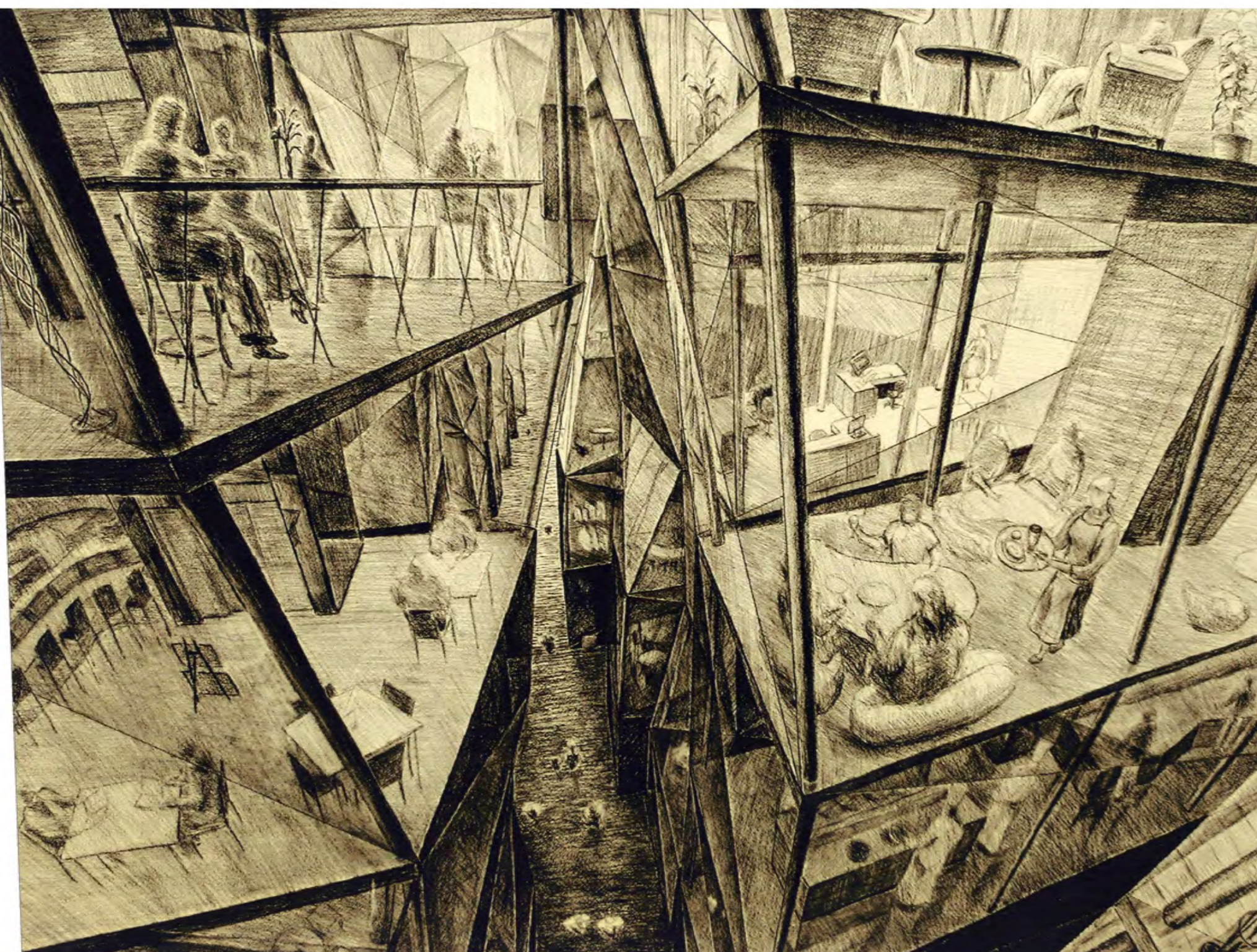


「横丁」であるこの計画に立脚していないプログラムを体得する。ここにどうひとつひとつである部局の関係性上、これを成立させる構造のみが、この建築のすべてである。

「用」は時に隣接との距離を伴った。この場合においては、同時に距離とある種距離を伴える形状の特異性による応答密度の差異を利用し、空間に取り付いたランナーが大変容易に機能する。複層的なシステム平常時は目立、異常時にそれ以外の余力を共有することは、効率性とともに更新性を保証する。

また、複合部で設備データの接続も考えられる平均的なワンルームである全体構造に対し、時間間による熱負荷の増減に反応する手段として有命な密度のこの街区において、外周部と内部で熱負荷に大きな差が生じることは避けられない。ここにおいて、共有という態度はこの不利をバランスする。

あるいはこの横丁は現在、共同でひとつの場所を所有しているこの感覚もまた、この場所の質なのだろう。



「横丁」であるこの計画に立脚していないプログラムを体得する。ここにどうひとつひとつである部局の関係性上、これを成立させる構造のみが、この建築のすべてである。

「用」は時に隣接との距離を伴った。この場合においては、同時に距離とある種距離を伴える形状の特異性による応答密度の差異を利用し、空間に取り付いたランナーが大変容易に機能する。複層的なシステム平常時は目立、異常時にそれ以外の余力を共有することは、効率性とともに更新性を保証する。

また、複合部で設備データの接続も考えられる平均的なワンルームである全体構造に対し、時間間による熱負荷の増減に反応する手段として有命な密度のこの街区において、外周部と内部で熱負荷に大きな差が生じることは避けられない。ここにおいて、共有という態度はこの不利をバランスする。

あるいはこの横丁は現在、共同でひとつの場所を所有しているこの感覚もまた、この場所の質なのだろう。